

# 事業の概況・商品群別の概況(連結)

上半期において、国内では、本年4月の診療報酬改定や2025年に向けて各都道府県が策定した地域医療構想に基づき、病床機能の分化・連携による地域完結型の医療体制の構築が進められました。医療機器業界においても、各企業は医療の質向上と効率化、地域医療連携に寄与するソリューション提案がより一層求められる状況となりました。海外では、米国の政策動向の影響や中東などでの政情不安はあるものの、医療機器の需要は総じて堅調に推移しました。

このような状況下、当社グループは、3カ年中期経営計画「TRANSFORM 2020」を推進し、「高い顧客価値の創造」「組織的な生産性の向上」による高収益体質への変革を目指すとともに、「地域別事業展開の強化」「コア事業のさらなる成長」などの重要課題に取り組みました。商品面では、生体情報モ

ニタとしては初めて、超音波プローブとUSB接続しエコー画像を表示できる機能を搭載した急性期病院向け中位機種ベッドサイドモニタを発売しました。診療所向けには、当社初となる一体型の全自動血球計数・免疫反応測定装置を発売しました。

当上半期の売上高は、前年同期比3.1%増の790億5千万円となりました。利益面では、増収効果に加え、全社的に売上総利益率の改善に取り組んだこと、一部費用の下期への期ずれなどにより、営業利益は前年同期比36.2%増の42億6千万円となりました。また、為替差益の計上により、経常利益は前年同期比41.6%増の52億7千万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比54.1%増の39億1千6百万円となりました。

## ① 生体計測機器

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品(記録紙、電極、電極カテーテルなど)、保守サービスなど



心電計 ECG-2400シリーズ

## ② 生体情報モニタ

心電図、呼吸、SpO<sub>2</sub>(動脈血酸素飽和度)、NIBP(非観血血圧)などの生体情報を連続的にモニタリングする生体情報モニタ、臨床情報システム、関連の消耗品(電極、センサなど)、保守サービスなど



ベッドサイドモニタ CSM-1901

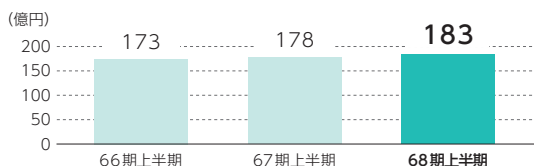
**国内** 脳神経系群、心電計群、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムともに堅調に推移しました。

**海外** 脳神経系群は米州、心電計群はアジア州で好調に推移しました。

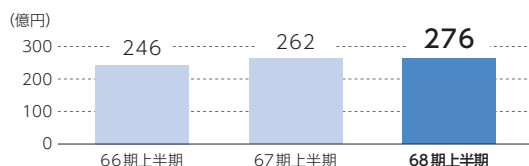
**国内** 臨床情報システムの更新商談が増加したほか、センサ類などの消耗品も好調に推移しました。

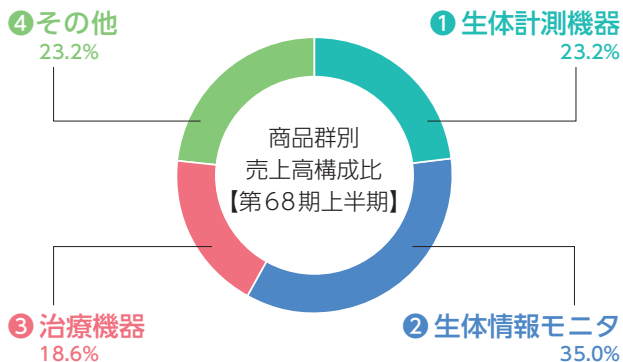
**海外** 米州が好調に推移し、特に米国での売上が大幅に伸長しました。またアジア州も堅調に推移しました。

### 売上高 183 億円 (前年同期比 2.9%増)



### 売上高 276 億円 (前年同期比 5.4%増)





### ③ 治療機器

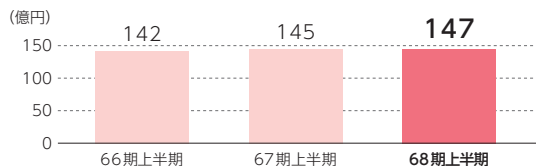
除細動器、AED（自動体外式除細動器）、心臓ペースメーカ、人工呼吸器、麻酔器、迷走神経刺激装置、人工内耳、関連の消耗品（電極パッド、バッテリーなど）、保守サービスなど



自動体外式除細動器 AED-3100

国内	医科向け除細動器は前年同期並みでしたが、AED、人工呼吸器が好調に推移しました。AEDは増設・更新需要の回復により販売台数が増加しました。
海外	医科向け除細動器は欧州、アフリカ市場で、AEDは米州、欧州でそれぞれ低調に推移しました。

売上高 147 億円 (前年同期比 1.3%増)



## ■中期経営計画

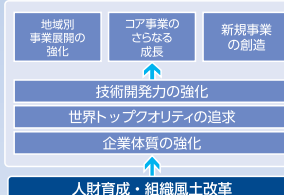
# TRANSFORM 2020

高収益体質への変革

基本方針

- ① 高い顧客価値の創造
- ② 組織的な生産性の向上

6つの重要課題



経営目標値 (2020年3月期)

	目標値
売上高	1,900 億円
国内売上高	1,350 億円
海外売上高	550 億円
営業利益	200 億円
ROE	12.0%

### ④ その他

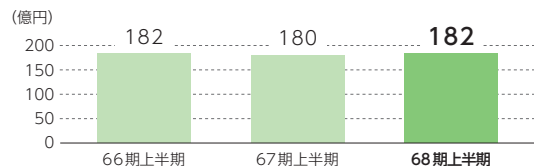
血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、研究用機器、消耗品（試薬、衛生用品など）、設置工事・保守サービスなど



全自動血球計数・免疫反応測定装置 MEK-1303

国内	新製品の血球計数器が売上に寄与したほか、保守サービス事業が好調に推移したことから、増収となりました。
海外	血球計数器は中南米、欧州、アジア州で増収となりましたが、現地仕入品が前年同期を下回りました。

売上高 182 億円 (前年同期比 1.5%増)



# 事業の概況・地域別の概況(連結)

## 国内市場

医療制度改革など市場環境の変化に対応するため、昨年4月の販売子会社制から支社支店制への移行に続き、本年4月に医療需要が増加する首都圏に営業リソースを重点的に配備しました。急性期病院、中小病院、診療所といった市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・保守サービス事業の拡大に注力した結果、全ての商品群で売上を伸ばすことが出来ました。市場別には、大学病院市場が好調に推移し、PAD市場(※)におけるAEDの販売も好調でした。官公立病院市場も堅調でしたが、私立病院、診療所市場は前年同期実績を下回りました。この結果、国内売上高は前年同期比2.9%増の578億5千7百万円となりました。

※PAD (Public Access Defibrillation) : 一般市民によるAEDを用いた除細動。PAD市場には公共施設や学校、民間企業などが含まれる。

## 海外市場

米州では、生体情報モニタリング事業の強化、脳神経系群の営業体制整備を進める米国が好調に推移しました。中南米は、ブラジル、メキシコが好調だった一方、コロンビアが低調に推移し、現地通貨ベースでは前年同期比微増、円ベースでは減収となりました。欧州では、ドイツ、イタリアは好調でしたが、ロシア、トルコが低調だったため、減収となりました。アジア州では、中近東は低調でしたが、中国、韓国、タイが好調に推移しました。その他地域では、エジプトでの商談が下半期にずれ込んだ影響もあり、減収となりました。この結果、海外売上高は前年同期比3.8%増の211億9千2百万円となりました。

